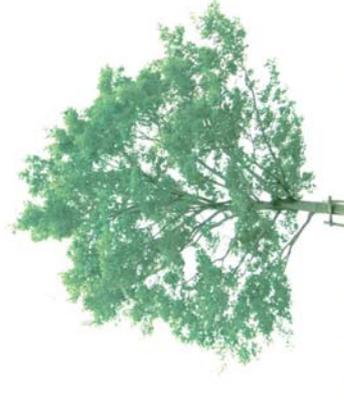


タイムスケジュール

10:00	受付開始
10:30	開会挨拶・オリエンテーション 一般社団法人全国食支援活動協力会
10:35	本事業の考え方 「住民のやる気を引き出す支援」が必要な背景とアセット重視の考え方 講師：内藤 佳津雄 氏（日本大学文理学部教授 / 本事業研究委員会委員長）
11:00	パネルトーク 「住民のやる気を支えるには」～住民の思いと支援～ 進行：平野 覚治（全国食支援活動協力会専務理事 / ワーキング部会長） 登壇者：鈴木 訪子 氏（東京都荒川区社協地域福祉活動促進専門員 / ワーキング部会委員） 三政 貴秀 氏（秋田県小坂町福祉課町民福祉班 / 研究委員） 富岡 亜希子 氏（日進市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター）
12:30	昼休憩（60分）12:30～13:20
13:20	ワークショップⅠ “協働的”態度で話をきく ファシリテーター：内藤 佳津雄 氏 （日本大学文理学部教授 / 本事業研究委員会委員長）
13:35	休憩（10分）13:35～13:45
13:45	ワークショップⅡ 活動支援プランニングシートの使い方 ファシリテーター：全国食支援活動協力会
16:00	アンケート記入、閉会

“住民主体の活動”を育てるには？ ～住民のやる気を支える支援を学ぶワークショップ～

東京会場



日時 令和2年3月17日（火）10:30～16:00
会場：東京ウイメンズプラザ視聴覚室

主催 一般社団法人 全国食支援活動協力会

「住民のやる気を引き出す支援」が必要な背景と アセット重視の考え方

内藤佳津雄 氏（日本大学文理学部教授 / 本事業研究委員会委員長）

「住民のやる気を引き出す支援」が
必要な背景とアセット重視の考え方

日本大学 内藤佳津雄

住民参加による生活支援等支援を開発する必要性

背景

- 総人口（とくに生産年齢人口）の減少
（ただし、老年人口は2040年代まで増加）
 - 家族構造の変化（独居・老々世帯の増加：家族以外の生活支援力が必要）
 - 地域における人間関係の変化（孤独・孤立の発生）
 - 地域における社会的資源の変化（公的支援力の低下）
 - 人口減少・超高齢社会に対応できる社会・地域づくり
地域における生活像
 - 身体的健康（フレイル、低栄養等）
 - 社会的関係（孤立・孤独に陥らない）
 - 心理的健康（幸福感、満足感など）
 - 日常生活の自立・自律
- 医療・介護や
公費による支援
だけでは困難
- 「インフォーマル」な社会参加&介護予防、生活支援が大きな課題

生活支援コーディネーターの皆さんへ

- 生活支援コーディネーターの役割として・・・
 - 総合事業の通所型サービスBを作りたい
 - 介護予防を担うグループ活動を作りたい
 - ちょっととした訪問型支援の担い手を増やしたい
- どれも重要な政策課題！しかし、ボランティア活動、住民参加型活動としての担い手がなかなか見つかからない、引き受けてくれない、広がらない
- 必要性を説いて強く押してみる方法もありますが・・・
- ボランティア活動とは、どういうもの？
- ボランティアは何をしたいの？
- ＜もう一度立ち戻って考えないと活動は広がらないかもしれない＞

住民参加による生活支援サービスの必要性

- 地域の課題解決に関心がある人
 - 地域の他者のために何かをしたい人
- 実はいる（例えば、子ども食堂）が見過ごされがちである
- 住民参加・ボランティア活動は、活動者自身が「やりたいこと」をしたい
「やりたいこと」は、活動者自身が価値を感じたことである
「やりたいこと」は不明確だが、地域のために貢献したい人がいる
- 他者に貢献する活動を地域に作っていくには、こうした発見されにくい「やる気」を育てる積極的支援が必要

アセット重視の考え方

図表3-1 ニーズ重視とアセット重視

	ニーズ重視	アセット重視
着眼点	ないもの	あるもの
対応の仕方	不足を補う	強みを伸ばす
住民との関係	住民に向けて	住民とともに
住民参加の度合い	低い	高い
時間幅	短い	長い
主な対象	個人	コミュニティ
評価の重点	客観性	主観性
基本的な問い	「なぜ病気になるのか？」	「なぜ健康になるのか？」

- アセット重視の特徴

「あるもの」＋「長い時間軸」に着目して、まずはできるところから始め、時間をかけて市内町内全域に普及させていく。

ニーズ重視の支援はマイナス面について評価する（調査）が、アセット重視では、まずはあることが重要なので。プラス面に向けて評価を行う。

アセット重視の支援の始まり

- まずは思いをよく聞くこと
地域の集まりやボランティア講座などで「地域で人のために何か活動をしたい」という思いをもった人との出会い
- 思いや意向を詳しく聞いてみる・・・思わぬ強みや良さが分かるかも（アセットの発見）
（例）
地域の中で集まれる場を作ってみたい
閉じこもりがちな近所の高齢者のことが気になっている
楽しいことなら友人も一緒にやりたいと言っている
空いている部屋があって、住み開きに興味がある

- 小さなことでも価値があり、小さなことからでも始められる
- ・はじめからボランティアが揃わなくても
- ・活動計画が立てられなくても
- ・できることから始めればよい。

肯定的に認められることで前向きになり、活動につながる

- マイナス面ではなくプラス面を見つける
事業や制度の枠に当てはめると、条件を満たしていないこと（マイナス面）に目が行きやすい（ニーズ重視に陥らない）
- ・構成メンバー3人しかいないから、「できない」のではなく、最初は3人もいと捉える

※単に住民の要望をかなえるのとは違うことに留意する

地域課題を感じて、自発的に活動を始めようとしていることが重要
(営利でない、政治や宗教活動でない、公序良俗に反しないが前提)

活動への「やる気」を高めることが重要

- ・内発的動機づけ（外的報酬によらないやる気）
本人にとつての興味や好奇心、楽しさによるやる気
- ・・・・ボランティア活動の一番の原動力は内発的動機づけ
- 内発的動機づけを高める要因
 - ①自分の目標に価値がある＋達成できそう（有能感）
 - ・周囲から社会的に価値を認める
 - ・目標に向けてどのように行動したら目標を達成できるのか道筋が明確
 - ②自分で目標や方法を決めること（自律性）
 - ・やらされ感の高い状況（ルールに縛られすぎ、他人の言うことばかり聞かないといけない）は内発的動機づけを低下させる
 - ③良好な人間関係
 - ・好感や信頼感といった「人間関係の良さ」があることにより、はじめてこちらの話を聞いてくれる
 - ・そのために、まずは相手の話を聴き、信頼感を作っていくことが大切

アセット重視な活動への支援

- 小さな活動、福祉とは違う分野の活動も大切な地域資源

- (例)
- ・数人の仲間で行っている
 - ・編み物や囲碁将棋などの趣味の集い
 - ・犬の散歩で出会う顔見知りの人たち
 - ・環境や市民活動などをテーマにしたくまちづくり活動>

- こちらが作りたいたい活動にすぐにはマッチングできない
- ・地域資源（アセット）を一つ一つ増やしていき、良好な人間関係を形成していきましよう（ネットワークづくり）
- ・思いもよらないときにつながることもある
- ・良好な関係の中からこそ、こちらの話を聞いてくれる人が現れる

(例) 「子どもの居場所」にきている小学生」が、数日入院する高齢者の「犬の散歩」をお手伝い→居場所までの送迎に、デイサービスの使っていない時間帯で車両を貸してもらえ

参加型の居場所づくりを基盤とすることを勧めする理由

- アセット重視で取り組みやすい活動形態である
- 気のあう仲間、自宅でもできる、活動形態は自由
さまざまな頻度が可能：毎日オープン～月1回 規模も多様：少人数～活動内容も多様：食、健康体操、学習支援、プログラムなしでも可能
- 担い手と受け手が対等
- 子ども～高齢者の参加による多世代の交流
(例) 食事を提供するとき、小さな子どもも配膳をしたり、スタッフと参加者が一緒にテーブルについて食べたりすることができる
- 食は人を集めてつなぐ
食事の提供を中心に据えた居場所・・・美味しいものをみんなで一緒に食べる楽しみは、人と人を結びつける、地域文化の継承、健康づくりなど多くのメリットがある
- 多様なサービスが生まれる基盤となる
お互いの困りごとを知る機会・解決しようとする動きにつながる（プラットフォームとして）の機能

「住民のやる気を支えるには」 ～住民の思いと支援～

進行:

平野 覚治 (全国食支援活動協力会専務理事 / ワーキング部会会長)

登壇者:

鈴木 訪子 氏 (東京都荒川区社協地域福祉活動促進専門員 / ワーキング部会委員)

三政 貴秀 氏 (小坂町福祉課町民福祉班 / 研究委員)

富岡 亜希子 氏 (日進市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター)

登壇者プロフィール

鈴木訪子 (すずきことこ)

荒川区立保育園の保育士を退職後、障がいのある子をもつ親の会荒川のぞみの会の放課後の遊びの会の活動を取り組むなかで、おもちゃ図書館をつくる。1986年より、荒川区社会福祉協議会におもちゃ図書館が常設となり、入職。現在は、地域ネットワーク課で、ボランティア・地域福祉活動を担当。

三政 貴秀 (みまさ たかひで)

秋田県小坂町役場福祉課町民福祉班 (小坂町多世代型地域包括支援センター「まるねっと」) 職員 (介護保険・地域包括ケア・地域共生社会政策担当) 2010年、秋田県小坂町役場入庁。入庁後から高齢者保健に関する業務に関わる。

16年より厚生労働省老健局振興課において、総合事業や生活支援体制整備事業、地域包括支援センターなどを担当。18年4月に復帰し、現在に至る。

登壇者プロフィール

富岡 亜希子 (とみおか あきこ)

・社会福祉士・保育士
・生物機能工学科卒業

20代 ・住民参加でつくる公園等を設計

・介護保険事業計画、老人保健福祉計画、エンジェルプラン等の行政計画のコンサルタント業務

30代 ・遺伝子実験・学生支援

40代 ・日進市社会福祉協議会 (地域福祉係)

・担当:CSW (福祉まちづくり協議会支援・つどいの場支援・個別相談・各種助成金・各種講座)

第1層生活支援コーディネーター (市内全域)

好きなモノ:生ハム



荒川区社会福祉協議会
地域ネットワーク課 地域福祉活動促進専門員
鈴木 訪子

住民が主役の地域づくりを

荒川区社会福祉協議会の主な事業

1. 地域福祉事業
 - ・おもちゃ図書館子育て交流サロン活動・ふれあい絆・活サロン事業、
2. ボランティアセンター事業
 - ・ボランティア活動の推進、福祉教育の推進、地域活動サロンふらっと、フラット事業
3. 在宅福祉事業
 - ・車椅子の貸し出し、有償在宅サービス事業・にこにこサポート・障害児者移動支援
4. 成年後見センターあんしんサポートあらかわ
5. 生活福祉資金の貸付・受給生チャレンジ事業
6. 助成事業、地域福祉活動助成、福祉団体・施設への助成
7. 被災地・被災者支援活動
8. 区受託事業、障がい者就労支援じよぶ・あらかわファミリー・サポート・センター
 - ・手話通訳派遣事業、手話講習会
9. 指定管理施設の運営
 - ①高齢者福祉施設3施設、荒川老人福祉センター、荒川東部在宅高齢者通所サービスセンター、西尾久西部在宅高齢者通所サービスセンター
 - ②障害者福祉施設4施設
 - ・荒川区立福祉作業所、荒川生活実習所、あらかわ希望の家・分場、障害者福祉会館アクロスあらかわ

荒川区ってこんな町

- 人口 217,278人（内外国人19,353人）117,295世帯
- 高齢化率 23%
- 面積10.16km²
- 町会・自治会 119 商店街40
- 民生委員児童委員 7地区 200名
- 主任児童委員15名
- 高齢者クラブ
- 地域包括支援センター・高齢者みまもりST 8か所
- 公立小学校24校 中学校10校 私立中高校2校 都立高校・高専2校
- 保育・介護専門学校1校 大学1校
- 再開発が進み、人口が増加。子育て世代が増加。交通は便利



高齢者にも障がいのある人にも子ども連れの親にとっても乗りやすい都電が走り、地域活動に参加しやすい環境



ボランティアセンターは 敷居の低いよろず相談の窓口

- ・ボランティア活動をしたい・ボランティアの力を借りたい
- ・どこに相談に行ったらよいかかわからない
- ・寄付をしたい・活動のための助成金を得る方法はないか
- ・自分の家を地域活動に使ってほしい
- ・路上で生活している、食べ物をもらえないか？
- ・ひとり暮らしの高齢者が沢山の猫を飼っていて、糞尿などの匂いで近所が困っている
- ・科学物質過敏症のため、外出ができない など

地域住民・ボランティアさんの立ち寄り所

- ・おもちゃ図書館子育て交流サロンに遊びに来る子育て中の親子とボランティアさんたち
- ・使用済み切手やペットボトルキャップを届けてくれる人
- ・不要になった物品を寄付してくれる人
- ・ふれあい絆・活サロンの担い手さん
- ・民生委員さん、町会・自治会の役員さん
- ・様々な障がいのある人々
- ・家族介護者など
- ・「そばまで来てから顔を来た」というボランティアさん

様々な地域情報が
が入ってくる

心がけていること
★どんな話も
しっかりと
傾聴する

★断らない
すぐに解決でき
ないことも多
いけれど一緒
に考えてみる

★できない理由を
探すのではなく
どうすればでき
るかを考える



荒川区の地域力を活かして～ボランティアセンター・ブラットフォーム



全社協・東社協・おもちゃの図書館全国連絡会・全国の子どもの食卓のネットワーク など

相談課題をつなぐことで 新たな活動を作り出す

荒川区の強みを活かして街づくりを

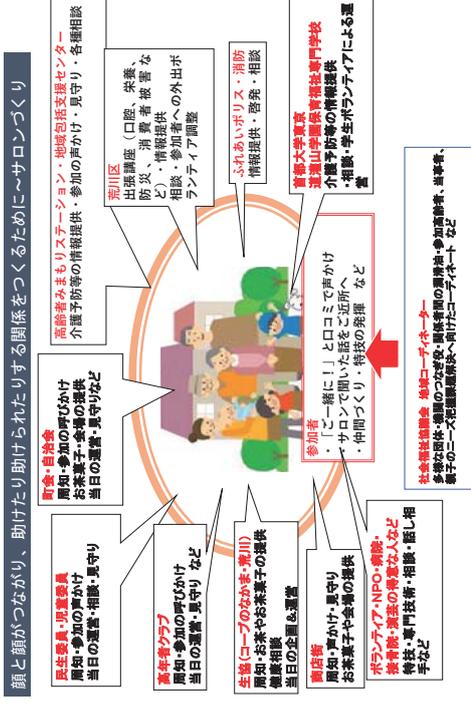
- きどらず普段着で暮らせる街
- 困っている人がいるとほっとけないおせっかいな人が多い
- 都電が真ん中を走り交通の便がよく外出がしやすい

面積が小さい～最長距離でも自転車1時間で1時間かからない
住民の口コミカ



商店街がたくさんある

平成14年度から、ネットワーク型サロンづくりをスタート



ネットワーク型ふれあい牌・活サロンで地域づくり

孤立・閉じこもりの防止

- 〇歩いて行けるところにサロンがあるので気軽に出入りでき、閉じこもりの防止につながる
- 〇決められたプログラムはないので、気楽に参加できる
- 〇おしやれして出かける場

地域の方々と知り合い 関わりができる

- 〇普段同じ町内に住んでいるのに、全く知らなかった人達にとっては地域交流の拠点になり、地域の中にと人とのつながりをつくる。

生活に役立つ情報が手に入る

〇同じ高齢者、子育て中の親連や地域の様々な立場の人々やボランティアと関わることで情報交換の場となり、福祉をはじめとする地域の情報や暮らしに役立つ情報が直接手に入る





ネットワーク型ふれあい絆・活サロンで地域づくり

生活上の困りごと・心配ごとを発見・相談・解決

- 気軽に参加しおしゃべりをしていて、暮らし中での困りごとや心配ごとを聞くことができ、高齢者みまもりステーション、地域包括支援センター、民生委員、杜協など様々な立場の人々が参加しているので、その場で解決につながる。
- 一人の相談から地域全体の問題として取り組むきっかけになる。

ネットワークで地域の福祉力を高める

- サロンの推進者である民生委員・児童委員、町会、商店街、ボランティア、高齢者見守りステーション・地域包括支援センター、行政、社協など、小地域福祉活動のキーパーソン同士がサロンを通じて連携することで、小地域での、見守りのネットワークが広がり、日常的な個別支援につなげていくことができます。

毎月 必ず顔を合わせることで、顔と顔がつながり ネットワーク力に

様々な思いを活動に テーマ型サロン

多様なニーズを解決するテーマ型サロン

- 家族介護者のサロン 男性介護者のサロンM
- 認知症のためのサロン 家族のためのサロン
- ろう高齢者のためのサロン ふくろうの会
- 私の話しをじっくり聞いてほしい ～傾聴サロン
- シングルマザーサロン～子どもの貧困は、親が貧困な状況に
- 不登校支援ネットワーク～カトリバ(当事者サロン)
 - ～ツナグバ・ソフィア(当事者と支援者サロン)
- 子ども食堂～ひとりぼっちでごはんを食べる子どもたちを、地域で支えたい
- 多世代交流地域食堂～子どもから高齢者まで多世代で食を囲んで交流
- 地域食堂～高齢者・特に男性高齢者のための会食サロン
- ひきこもり家族会サロン
- ふるさとサロン～東日本大震災で避難してきた方々

ひとりぼっちをつくらない



サロン活動から、地域のたすけあいの仕組みづくり



サロン担い手交流会で、地域課題の抽出とその解決にむけての取り組みについて協議

サロンの参加しない人々をどのように見守るか？

SOSを出せない、出さな
い人へのアプローチをするには

ふれあい絆・活サロン96か所(令和2年2月現在)

地区ネットワーク型サロン 56か所
 ●南千住地区9 ●荻川地区11 ●町屋地区6
 ●東尾久地区5 ●西尾久地区8 ●東日暮里地区8
 ●西日暮里地区9

子育てサロン 3か所

介護予防サロン 11か所 ※毎週1回実施

テーマ型サロン 26か所

子ども食堂・子ども居場所活動が広がり、住民と行政と専門機関などのネットワーク「あらかわき子ども応援ネットワーク」ができたことで、支援者が増え活動が見える化

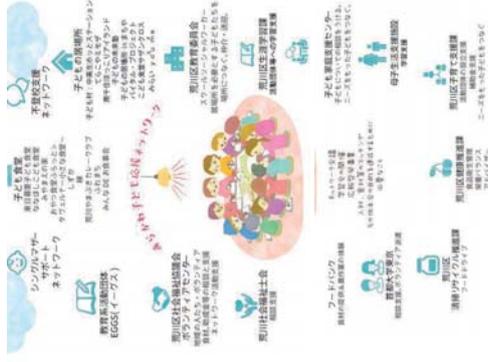


高齢者 特に、サロンには参加しない男性高齢者が参加したいと思う子ども食堂のような食堂をつくりたい！

ひとり暮らし高齢者は食生活も心配



地域食堂・多世代交流地域食堂





三ノ輪地域食堂



小坂町における「住民のやる気を引き出す支援」



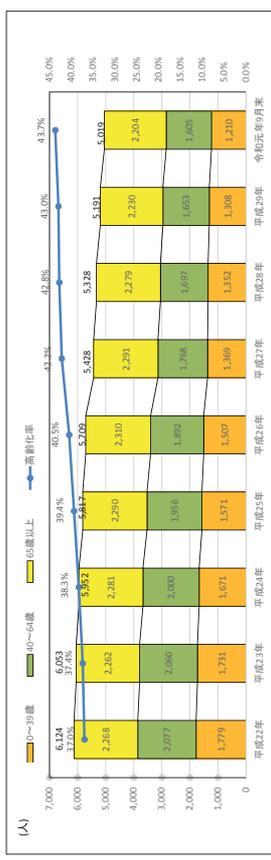
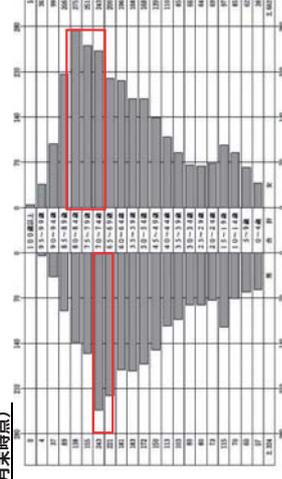
小坂町役場福祉課
三政 貴秀

住民と一緒に新しい地域活動をつくりたりするために大切にしていること

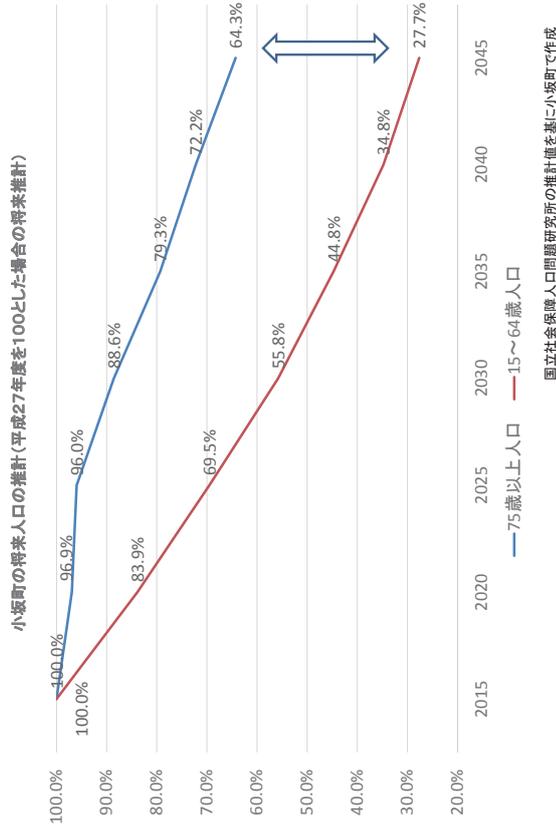
- アナログで顔と顔を合わせつつなく、つながる 「思い」を伝える 伝え合う
思いを一緒に、活動プログラム・計画を描く
- **相談は、断らない！**計画にないことでも、必要である場合は受け止め柔軟に取り組む努力をする
できない理由を考えるのではなく、**どうすればできるのかを考える**
- 情報は、人がもってくる。たくさんの集まったた情報・ニーズは、ポラセンで囲い込まないように
地域住民・ボランティア・関係機関・行政に伝え共有する
- フラットフォーム型ネットワークする～目的を同じにし、それぞれの強みを活かし、機能するしくみづくりを協働する～一緒に取り組むことのおもしろさを感じられる
- 住民と一緒に汗を流す～活動の場にできるだけ顔を出す
- 活動がスタートしたら、情報誌やマスコミに取材を依頼 →住民・ボランティアに声をあてる
- いつも高くアンテナを張りめぐらす。ネットワークがあればあるほど、アンテナを高くすることができ
- 職場内のネットワークは、みんなで意識化する～上司を仲間にし、情報を共有

小坂町の人口・世帯の状況 (令和2年1月末時点)

- 秋田県の北東部に位置する山間地域
- 人口：4,986 人 (男 2,324人 女 2,662人)
- 世帯数：2,385世帯
- 高齢者人口：2,202人 (うち75歳以上 1,295人)
- 高齢化率：44.2% (75歳以上割合 26.0%)
- 要介護認定率：14.2% (313人)
- 1人当たり総生産2/25位 (秋田県市町村別)
- 1人当たり所得4/25位 (秋田県市町村別)



小坂町の将来の人口推計



2

町を取り巻く地域環境の変化

〈現状〉あらゆる世代の人口減少

→人口減少に対応した変革の波にスピード感を持って対応する必要あり
 〈課題〉・低下する“地域の課題解決力”

・医療や介護サービスを始めとした、あらゆる分野での人材不足

〈現状〉地域資源の縮小

→人口減少が進むことによる公共・市場サービス等の縮小

〈課題〉・生活基盤の維持・継続に向けた素早い対応

・生産性の向上や効率化による持続性の追求

・自助や互助の力をどう維持していくか(新たな支援の模索)

〈現状〉地域の繋がりの希薄化

→人口減少と住まい方の多様化による生活環境の変化

〈課題〉・地域と公的支援の運動性の強化

・小地域単位での現状や課題、ニーズ等の把握

・目指すべき地域像とのギャップをどう埋めていくか

・互助の力をどう維持していくか

3

住民のやる気を育てる支援に取り組む前に
 忘れてはいけない大切なこと

役所の職員として

『1人ひとりの幸せにどこまで応えられるか』

4

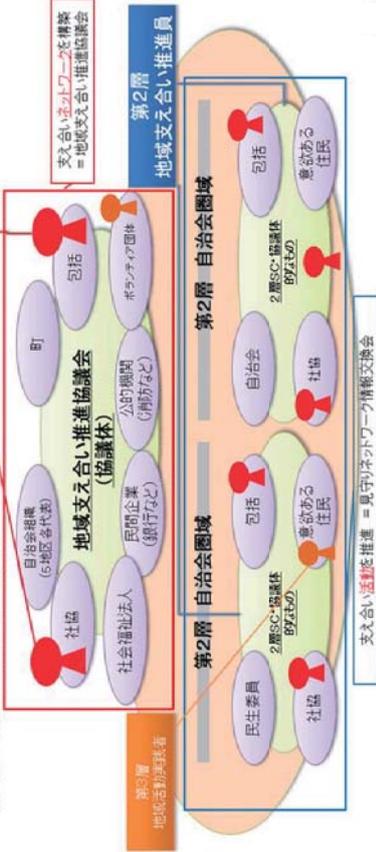
地域づくりを支援しようとするうえで陥りがちなこと

- 行政の考え方、働き方、事業、方法等を中心に置いたうえで、地域資源を自分たちの枠組みに巻き込もうとしていないか？
 →補助制度、事業の進め方、事業評価などの進め方は適切か
- 解決すべきことを本質的に把握できているか？
 →行政等からの支援とニーズのミスマッチは起きていないか
 →解決すべき課題は地域(圏域or全域)で共感を得られるものか
- 支援することと何を目指したいかを理解できているか？
 →自治体(職員)の価値観を時代に合わせて変えられるか
 →最後はその地域に暮らす住民に価値が生まれるべき
- 地域に“無いもの”をどうにかしようとしていないか？
 →既に地域にあるものでも、モノの見方を変えたり、新たな支援や繋がりを促すことにより、活動がよりイキるものはないか

5

地域生活課題の把握と支え合い活動

第1層 小坂町全域(日常生活圏域が1つ)



★この取組で目指したいこと

- ・1人ひとりの暮らしを把握すること
- ・町全体 (or 圏域) が目指す地域像を地域の隅々まで共有すること
- ・生活支援コーディネーターがいま地域にある資源を把握すること
- ・今まで繋がっていなかった人と人、人と資源を繋ぐこと

6

生活支援コーディネーターの活動

第2層協議体におけるネットワーキング



一人と人、人と資源をつなぐ

第2層協議体における見守り・資源マップの作成



支援ニーズと地域資源のマッチングの検討

7

地域にはたくさんさんの資源がある

場所	地域(身の回り)	町内(全域)	町外
自治会館 地区公民館 商店 公園 バス停 産地直売所 など	公民館 福祉保健総合センター ローン・ファミマ 飲食店・居酒屋 スーパー(マックスバリュ) 診療所 スパナック など	公民館 福祉保健総合センター ローン・ファミマ 飲食店・居酒屋 診療所 スパナック など	ショッピングセンター(モール) 公園 総合病院 自動車学校
介護予防推進員 民生委員 地区老人会 自治会員 地区ボランティア など	リハ派遣事業 出前講座 ボランティア団体 小坂高生 老人クラブ など	リハ派遣事業 出前講座 ボランティア団体 小坂高生 老人クラブ など	シルバー人材センター 出前講座 総合病院からの派遣 ゴミ収集車 宅配業者・出前業者 など
自治会報 見守りマップ ポスター・パンフレット 口コミ など	広報こさか 社協等の広報 町防災メールマガジ ハサードマスタック 見守り支援ステッカー など	広報こさか 社協等の広報 町防災メールマガジ ハサードマスタック 見守り支援ステッカー など	きたたんぼFM 拓込チラシ タウンページ など
自治会費 寄付・遺贈 おすて分け など	居場所づくり補助金 訪問型サービス補助 赤い羽根共同募金 寄付 など	居場所づくり補助金 訪問型サービス補助 赤い羽根共同募金 寄付 など	民間企業等の寄付助成 県の居場所づくり補助 リサイクルショップ など
地区内での集り合い 地区でのイベント 井戸端会議	バス(公共・町営) デマンドタクシー 社団法人の移動支援 タクシー会社 など	バス(公共・町営) デマンドタクシー 社団法人の移動支援 タクシー会社 など	フィットネスクラブ MSP+TDAS機器リース会社
その他			

8

雪国特有の問題にも支え合いで対応

1 大地自治会に除雪委託 町民との協働モデルに 小坂町

小坂町は12月1日から、冬期間の町民の快適な暮らしを確保するため、新たな取り組みとして七滝地区の大地自治会に除雪業務を委託する。町民との協働による除排雪作業体制づくりの充実に向け、今冬から5年間にモデル事業として実施。除雪車1台を貸与し、住民に集落内の除排雪に取り組みってもらう。

町は、総合計画で「冬の暮らしに強いまち」(雪対策)を掲げ、各種施策に取り組みしている。町民一体で総合的な除排雪施策を効果的、効率的に実施しようとして、町民が担い手となる。委託期間は12月1日から来年3月31日まで。1シーズンごとに事業について検証し、効果や課題をまとめる方針。

町は、総合計画で「冬の暮らしに強いまち」(雪対策)を掲げ、各種施策に取り組みしている。町民一体で総合的な除排雪施策を効果的、効率的に実施しようとして、町民が担い手となる。委託期間は12月1日から来年3月31日まで。1シーズンごとに事業について検証し、効果や課題をまとめる方針。

町は、総合計画で「冬の暮らしに強いまち」(雪対策)を掲げ、各種施策に取り組みしている。町民一体で総合的な除排雪施策を効果的、効率的に実施しようとして、町民が担い手となる。委託期間は12月1日から来年3月31日まで。1シーズンごとに事業について検証し、効果や課題をまとめる方針。

町は、総合計画で「冬の暮らしに強いまち」(雪対策)を掲げ、各種施策に取り組みしている。町民一体で総合的な除排雪施策を効果的、効率的に実施しようとして、町民が担い手となる。委託期間は12月1日から来年3月31日まで。1シーズンごとに事業について検証し、効果や課題をまとめる方針。



2017-11-30

町は、総合計画で「冬の暮らしに強いまち」(雪対策)を掲げ、各種施策に取り組みしている。町民一体で総合的な除排雪施策を効果的、効率的に実施しようとして、町民が担い手となる。委託期間は12月1日から来年3月31日まで。1シーズンごとに事業について検証し、効果や課題をまとめる方針。

平成29年11月30日付 北鹿新聞より引用

9

少しずつ増えている地域での支え合い

従来からの地域の居場所

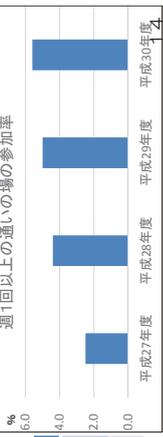
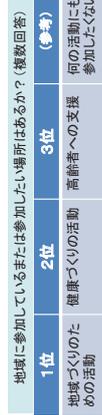
生活支援コーディネーターの活動によって把握された地域の居場所された(=介護予防ケアマネジメントに反映)

生活支援コーディネーターが立ち上げに関わった地域の居場所

※中川市、羽島市、三河市、豊田市の4市を比較し、1市1町を代表して掲載している。異なる市町村は、異なる色で示している。

市町村	生活支援コーディネーターの活動によって把握された地域の居場所	生活支援コーディネーターが立ち上げに関わった地域の居場所
中川市	48	2
羽島市	12	1
三河市	15	1
豊田市	20	1
...

少しずつ広がっている「活躍できる地域」



住民ニーズを充足する機能の低下

- 「公(庫)」は、経営資源の制約により、従来の方法や水準で公共サービスを提供することは困難になる。
- 「共」は、都市部では共助の受け皿が乏しい。また、地方部を中心に、生活支援機能を担ってきた地縁組織は高齢化と人口流出により機能が低下。
- 「私」は、人口減少による市場の縮小により、民間事業者の撤退やサービスの縮小が生じる。また、一人暮らし高齢者世帯や共助の移住者の増加により、家族の扶助機能が低下。
- 自治体は、公共の機能低下に対応し、新しい公共(特に公・共・私)の協力関係の構築によりニーズを充足できるように対策を講じる必要がある。

「公」共「私」によるニーズ充足機能の低下

経営資源の制約によるサービス提供機能の低下

- ・ 厳しい財政需要や職員の削減により、サービス提供方法の見直しを行わなければならない。従来の水準で公共サービスを維持することが困難になる。

住民同士の関係性の希薄化

- ・ 住民の活動が激しい地域(特に都市部)では、地域における住民同士の関係性が希薄であり、住民同士の相互扶助が機能しない。

地縁組織の扶助機能の低下

- ・ 地縁組織が存在する地域においても、住民の派立や高齢化により、地縁組織が担ってきた車守りや働きなどの生活支援機能が低下している。

市場サービスの喪失

- ・ 人口減少に伴う経済規模の縮小により、商店や公共交通といった民間事業者の撤退やサービスの縮小が生じる。

家族の扶助機能の低下

- ・ 高齢化・高齢者の増加、共働き世帯の増加により、家族の扶助機能が低下している。
- ・ 高齢者や児童の長年や生活支援など家族の扶助機能が低下している。

多様な担い手によって住民ニーズを満たす仕組みの今後の課題

- 住民同士の関係性が希薄で共助による相互扶助の取組があまり行われていない地域(大都市部を想定)では、個々の住民がサービスを購入することでニーズを満たすことが想定されるが、地域の共通課題への対応は脆弱。今後、住民ニーズを満たす共助によるサービス提供体制をいかに構築するかが課題となる。
- 地縁組織などの共助による支え合いが広がっている地域(主に地方部を想定)では、人口減少と高齢化が進むことで、住民ニーズに対するサービスの供給が私の領域でビジネスとして成り立たない可能性が高まる。一方、共助による支え合いの基礎となる主体(地域運営組織等)が継続的に活動できるようにするために、人材、資金、ノウハウをいかに確保するかが課題となる。

住民同士の関係性が希薄な地域
= 共助の受け皿がない地域
(主に大都市部を想定)



私 個々の住民がサービスを購入することでニーズを満たす
ただし、サービス購入できない住戸も存在

共 共助によるサービスの提供があまり行われておらず、
地域の共通課題への対応は脆弱

今後の課題

共助による支え合いが広がっている地域
= 共助の受け皿がある地域
(主に地方部を想定)



私 人口減少と高齢化が進むことで、住民ニーズに対する
サービスの供給がビジネスとして成り立たない可能性

共 地縁組織などの共助による支え合いが広く存在
ただし、人口減少と高齢化が進むと、活動組織が困難に

今後の課題

住民ニーズを満たす共助によるサービス提供体制をいかに構築するか

共助による支え合いの基礎となる主体(地域運営組織等)が継続的に活動できるようにするために、人材、資金、ノウハウをいかに確保するか

“黒子(行政)”として住民のやる気を引き出すために心得ておくべきポイント

- ① “つなげる(つながる)”または“気づきを生む”機会を大切にする
- ② 自分(住民)たちの意志で物事に取り組める環境をつくる
- ③ 住民が“誰かの役に立っている”ことを感じられる環境をつくる
- ④ グループで取り組む環境を仕掛けることにより孤独感を解消する

ご清聴ありがとうございました


 小坂町マスコットキャラクター
 「おんきん」

18

まちづくり協議会の 立ち上げ支援について

(愛知県) 日進市社会福祉協議会
富岡 亜希子 (CSW・1層SC)

日進市は・・・

西は 名古屋 (トヨタ自動車)
東は 豊田市



人口 91,538人
世帯数 37,370世帯
高齢化率 20.0% (2020.1.1現在)

行政区 19区
旧中学校区 3区
(↑包括支援センターが1つずつ
2層SCが1名ずつ・
1層SCが2名 計5名配置)
※社協CSW3名 (担当制ではない)

-1-

まちづくり協議会とは・・・

(市町によって存在の有無も、定義も違うとは思いますが)

助成金交付対象として以下のように定義しています。

- ①地域の福祉課題の解決や福祉のまちづくりのために、地域たすけあい相談員（CSW）と協働し
- ②小地域福祉ネットワーク活動や地域内の福祉活動推進など
- 地域福祉の推進を目的とした活動を行う任意団体。

一言でいえば
自分達のまちの福祉について話し合ったり、
考えたりする会
※区単位2・自治会単位1

今日は、この立ち上げ交換のご報告をします！

香久山区のみなさん ワンコインサービス依頼増加中！

お任せ下さい!!

これまでに、草刈り・ほっとカフェへの移動・家具の移動の依頼がありました。

お気軽に、多数のご利用をお待ちしています。

100円メニュー
作業時間 10～30分以内

- 電球や蛍光灯の交換(1灯のみ)
- 朝のゴミ出し
- ストーブ等の灯油の補給
- 布団干し
- 布団の取り込み
- その他、10～30分程度の作業

500円メニュー
作業時間 30～60分以内

- 庭の片付け(庭のゴミ出し)
- 簡単な買い出し(1人で動かせる程度)
- 室内の家具の移動(1人で動かせる程度)
- 資源化筒(生相壁等)の持ち出し(各地区の回収指定場所まで)
- その他、30～60分程度の作業

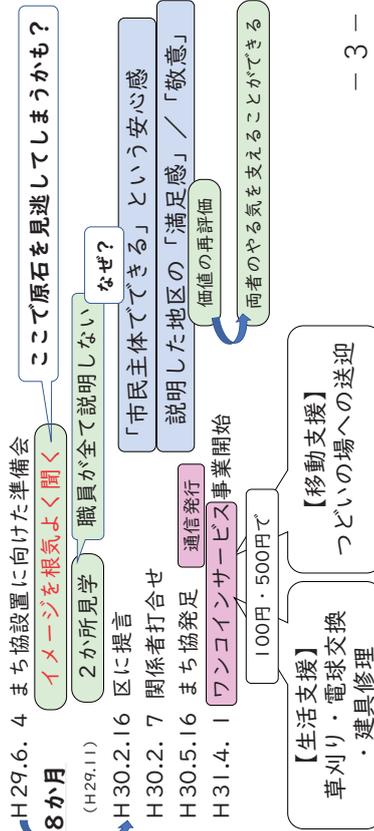
電話番号をメモしておいてください!

ワンコインサービスに関する依頼・問い合わせは **イコー/ハ イミ**
 香久山会館 事務局電話 080-1588-1133
 受付時間 月・水・金 9時～13時

メンバー作成

話し合って、1年間に3回改版

お手伝いⅠ 何をしたいか整理



お手伝いⅡ 区との関わりを共有

区と連携したい → 前年度区役員会で提言

→ 承認を得たが・・・

区役員の本音は？ → 逃げたい？ 困る？

→ 無責任 **✗** ではない!

→ 誰が責任をとるのか? (不安なだけでは?)



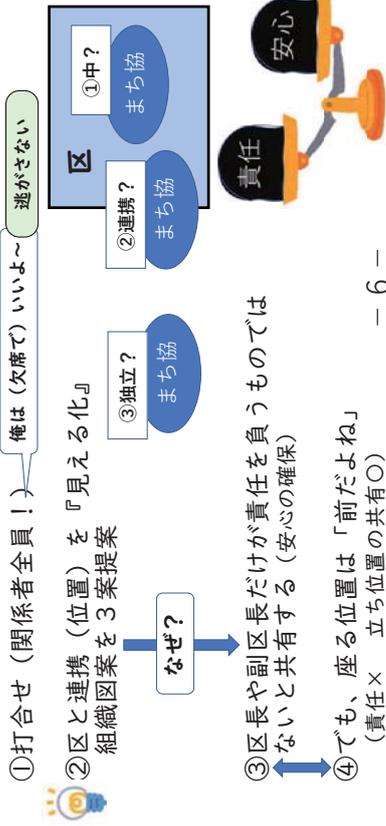
区役員

住みやすいまちづくりを支援する必要がある。誰が? ⇒ 代表だって、地域住民だって

区長だって、民生だって、ボラだって!!

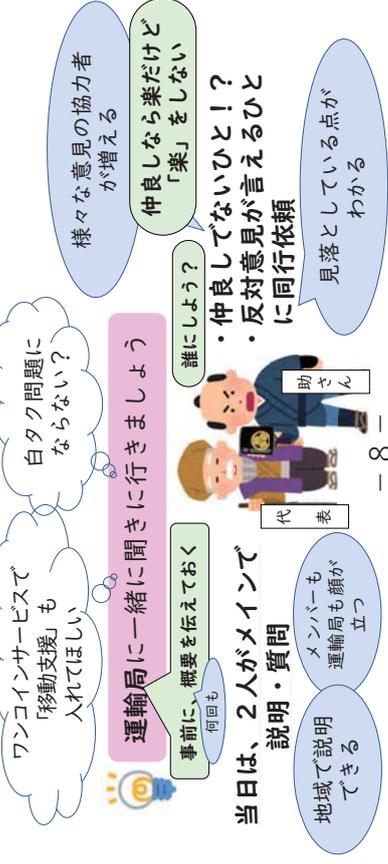
忘れられがちでは?

（つづき） 区との関わりを共有



- 6 -

お手伝いⅣ 助さんがいない時



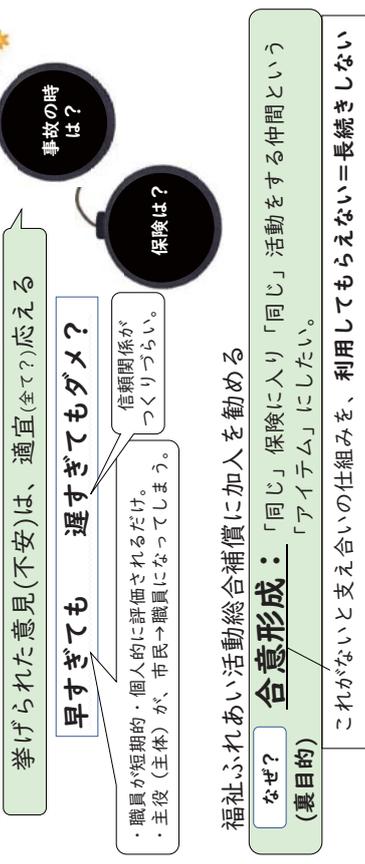
- 8 -

お手伝いⅢ 意見がまとまらない時



- 7 -

お手伝いⅤ 保険加入



- 9 -

お手伝いVI 移動に関する領収書

送迎だけでお金をいただいた
いると思われているみたい

こんな近くの送迎で、お金を
取り過ぎと噂された

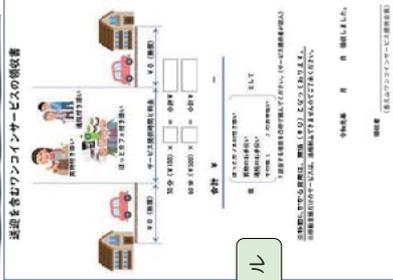
住みやすいまちづくりを支援する必要がある。
特に、金銭を巡る誤解は阻止してあげたい！

「早すぎ」ないとダメ

すぐ、領収書を作成してメール

使うか、使わないか、修正するかは、
まち協のみなさんに考えてもらう

提案○
指示×



お手伝いVIII 時々提案

お金の授受
が心配

早すぎても 遅すぎてもダメ？

ひとり
活動？

依頼が来ないもん

ワンコイン スタートして4か月後
【超ぶちヘルパー勉強会】
◆金銭授受・買物代行の注意点を学び

ワンコイン スタートして半年後
【lineグループの活用提案】
◆依頼情報を共有 ◆平等化

- 早すぎると、質問すらわからない
- 早すぎると、怖くなってしまふ
- 遅すぎると、我流で進んでしまふ
- 遅すぎると、不安をやめてしまふ

- 早すぎると、市民主体が壊れる
- 早すぎると、話合いの機会が減る
- 遅すぎると、不平等が定着する？
- 遅すぎると、メンバーが減る？

お手伝いVII 活動への意味づけ

半年後、代表の提案で、メンバーが活動の振り返り

特に何もしてない

次は、何するの？

- この「振り返り」をすることがすごい
- 今まで別々に活動していた団体が定期的に会えるようになった
- ワンコインサービスも移動支援も始まった
- いつもイベントを考えていなくても「つぶやく」ことが大事

反省・確認・共有

好事例

連携

気付き

具体的な事例を共有する

気が楽になった〜♪

つぶやく①「夏祭りの金魚すくいできない」(子ども会)→まち協有志で代わりに実施
→裏切れる・2万円ゲッツ

つぶやく②「つどいの場に足の不自由な方を連れてきて」(つどいの副代表) →移動支援スタート

住民のやる気を支える支援？

誰も住みやすいまににするために、考えたい

→地域の役員や民生委員等に押し付けけない。(地域住民≠生業)
→住民がいろいろいらひすることは、代弁する。(住民同士が喧嘩になる構図をさける)

・「主体が市民」=「主役が市民」といつも考えたい

→住民が良い発言をした時は「〇〇さんの提案のように」と共有する。

→現場に行く。(パワーバランスの変化は？ 見えない不満は？ 代表息切れしてない？)

→参加者のバックグラウンドを緩やかに探る。(=得意分野が見えやすくなる) 主役にする支援が楽！

例：プレゼンする仕事⇒パネリストとして講演会での発表依頼 (支援のため参加するメンバー=現る！)
例：花植え運動を長年してると ⇒ 花壇を見に行って後日話題に (会議の盛り立て役に！)

◆つぶやくを大事にしたらい→ワンコインサービス (移動支援) ・通信発行・金魚すくい代行

【価値の評価】

- 安心感、活気を生み出す
- 孤立しそうなひとを減らせる
- 新しい活動、後継の取組み、制度にない活動は生まれる→託児？
- 資金を調達することができる→SCと一緒に補助金要綱作成していく
- 誰でも担い手、利用者になれる
- 生きがいがいい、健康増進、介護予防につながる
- 制度にない活動は生まれる→託児？
- 資金を調達することができる→SCと一緒に補助金要綱作成していく

「協働的態度で話をきく」

信頼関係を形成して活動への動機づけを高める

内藤佳津雄 氏（日本大学文理学部教授 / 本事業研究委員会委員長）

協働的態度で話をきく

信頼関係を形成して
活動への動機づけを高める

日本大学 内藤佳津雄

協働的關係の形成に必要な基本的姿勢

- ① **内発的動機づけを阻害する言動をしない**
相手にいじわるをしない、けちをつけない
こちらの価値観や考え方、求めることを押しつけない
◎相手の強みやよさを積極的に評価すること
- ② **話を聴く姿勢を示す**
基本的態度として相手の話を聴こうとすることが大切
話を聴こうとする気持ちが根底に求められる
- ③ **熱意をもって対応する**
相手を支援する行動を示す
・支援の方策を全力で考える
・時折訪問して活動を見る など

話を聴くときの基本的な姿勢や行動 相手に「聴いている」態度を明確に示す姿勢が基本

- **視線、まなざし**
基本的に視線を向ける（凝視しすぎない）
メモや資料ばかり見ない
視線を向けるときは数秒間は必ず向ける
（「ちらっ」と見ない）
- **目線**：同じ高さ（同じ椅子に座る）
- **表情**：困った顔や不快そうな顔をしない
- **座る位置**：相手と90度の角度か、斜め向かいに座る
（真正面に座ると強制感が高まるので、避ける）
- **座る姿勢**：相手側にやや前傾（背もたれに寄りかからない）
- **くせに注意**：腕組や脚組は威圧的になるのでやめる

話を聴いていることを積極的に示す応答 相手の話を引き出す質問力と励まし

- **積極的なうなずき・あいづち**
バリエーションをつける
- **反復を活用する**
相手の話のポイントを繰り返す
- **とくに感情や意思を示した発言は繰り返して共感**
ボランテイア
「男性向けの活動を何かやりたいかと思っています」
コーディネーター
「男性向けの活動をやりたいと考えていらっしゃるんですね」
- **基本は広がる(openな)質問を使う**
閉じた(closedな)質問(はい・いいえで答えられるような質問)
ばかり続けると事務的で押しつけられている感じになりやすい

• 相手のやりたいこと、目標などを認める

相手にとつてのよいこと、価値を感じていることに対してポジティブな感情を示す。
(価値を共有：やる気を高める)

「良いですね」、「面白そうですね」、「素晴らしい」

• 課題が発見されたら解決に向けて協力するなど、励ます

課題はそのまま放置すると不安になるので、解決に向けていっしょに取り組むことを明言
コーディネーター「協力者はいますか？」

住民「いえ、いません」

コーディネーター「そうですね」(ここで止めると「いない」結論で終わってしまい不安)

コーディネーター「では、見つける方法を一緒に考えていきましょう」

• 解決策として提案があるときには、最後に同意を求める

コーディネーター

「…という方法もありますが、どう思いますか？」

(「提案をすぐにやりましょう」と伝えるのではなく、相手に必ず感想や同意を求めながら進める)

.....
[お問合せ先]

一般社団法人 全国食支援活動協力会
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 6-19-21
☎ 03-5426-2547
Fax 03-5426-2548
E-Mail infomow@mow.jp
.....